

平成27年度病害虫発生予察注意報 第1号

平成27年6月23日

大分県農林水産研究指導センター

農業研究部

対象作物：早期水稻

対象病害虫：いもち病（葉いもち）

1 対象地域 県内全域（特に県南地域）

2 発生量 多い

3 発表の根拠

- （1）農業研究部病害虫チームが6月17日～6月22日に実施した巡回調査では、葉いもちの発生圃場率は40.0%（平成26年8.0%、前年0%）、平均発病度は7.1（平成26年0.2、前年0）と、いずれも平成26年値と比較して高かった。また発生圃場では、進行型病斑が多数認められている。
- （2）イネ葉いもち発生予測モデル（BLASTAM）によると、本年は6月14日～6月20日にかけて感染好適条件が出現している（表1）。特に6月19日には県内の広い範囲で感染好適条件が出現している。葉いもちの現在の発生は県南地域のみであるが、今後発生の拡大が懸念される
- （3）6月18日福岡管区気象台発表の1か月予報によると、平均気温は平成26年並～低い確率が80%、日照時間は平成26年並～少ない確率が70%と冷涼、寡日照で推移すると予想されている。本病は冷涼、寡日照条件が発病に好適であり、発生を助長する可能性がある。

4 防除上注意すべき事項

- （1）葉いもちの発生が多い場合は、直ちに防除を行い、穂肥を控えめに施用する。
- （2）苗箱施薬を行っていない圃場では、粒剤による葉いもちの予防に努める。
- （3）QoI剤（オリサストロビン、メトミノストロビン、アゾキシストロビン）については、耐性菌が確認されているので、使用を控える。
- （4）防除薬剤は、大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）に注意する。（ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/oita/>）

表1 BLASTAMによる感染好適条件の出現状況（6/14～6/21）

月/日	院内	杵築	武蔵	佐伯	蒲江
6/14	—	—	—	—	●
6/16	—	—	—	●	●
6/17	—	—	●	—	—
6/19	●	●	—	●	●
6/20	●	●	—	—	—

注) 感染好適条件出現の約一週間に初発病斑が認められ、約二週間後に病斑が目立ってくる。

判定指標の解説

- 好適条件： 湿潤時間中の平均気温が15℃～25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間満たし、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温の平均値が20℃～25℃の範囲にある